

~~取締役~~ ~~顧問~~ ~~社長~~

9/27 [Redacted]

NISA 経 へ プレス 対応
4-6

情報共有

非管理文書

(3枚)

プラント状況 (本店レク) 議事メモ

日時：平成 23 年 9 月 25 日 (日) 11:00~11:40
場所：東京電力本館 3 階 大会議室
先方：記者約 20 名 (カメラ 3 台)
当方：原子力設備管理部 [Redacted]
広報部 [Redacted]

配布資料：

- ・ 福島第一原子力発電所 プラント関連パラメータ (9月25日6時現在)

[Redacted] よりプラント状況、配付資料に関して説明。

質疑：

Q. サリーの停止について、どのような警報が鳴ったのか詳細を教えてください。
A. 現在、Bポンプを使いA系統とB系統の両方に水を送っていたが、Aポンプの出口とBポンプの出入口のバルブが閉まっているという警報が鳴り、自動停止した。

Q. 設備に異常が無いというのは、どのようにして確認したのか。
A. 現在調査中だが、設備の故障は認められず、バルブが閉まったという警報のみが確認されている。

Q. バルブはどのような際に動作するのか。
A. Aポンプを使用する際にはBポンプのバルブを閉め、Bポンプを使用する際にはAポンプの弁を閉める。今回は警報だけが確認されており、バルブの動作状況については確認中である。

Q. バルブの開閉は手動により行うのか、自動的に作動するのか。
A. 自動運転にもできるが、停止時は手動による運転モードになっていた。

Q. 警報はどのような条件で鳴るのか。
A. 通常、警報は水の流量の過多過小によって鳴る。今回鳴った原因は調査中だが、バルブが閉じたという信号が出ている。

Q. 当分サリーを停止したまま、調査を行うのか。
A. その通り。

Q. 福島原子力発電所の事故に対する損害賠償について、避難者が親戚宅や知人宅に宿泊した際の宿泊費が払われない理由は。
A. まずは基準を設けて対応させて頂いている。個々の事情についても勘案して対応させて頂くので、一概に払わないという訳ではない。

Q. 国土交通省の調査によると、岩手県や宮城県よりも福島県の方が地価の下落が激しく、原子力発電所の事故の影響が大きいという報道があるが、東電としての見解を教えてください。

A. 確認させていただく。

Q. ふくいちライブカメラについて、9月21日20時頃から調子が悪かったが、原因は。

A. 台風が近づいていたため、風雨による接触不良等が原因かと思う。

Q. 故障の可能性を加味して、カメラは複数台設置するべきではないか。

A. 今回の件を教訓としてカメラ不良が起こらないよう対策を取るが、複数台の設置については保安上、核防護上の理由により1台限りとしている。

Q. サリーの停止について、原因は人的ミスである可能性はあるのか。

A. 現時点で人的ミスの可能性は極めて低いが、現在調査を進めている。

Q. 1号機配管内の水素検出について、今後の作業の見通しを教えてください。

A. 本日は作業を行う計画は無く、明日以降作業を開始する。現在、類似の配管のリストアップ、水素、酸素濃度の計測等を検討している。

Q. 明日から作業を開始するということは、水素濃度計の入手の目処が立ったということか。

A. まだ、入手の目処は立っていない。

Q. 酸素濃度について、測定は難しいという話であったが、測定可能なのか。

A. 酸素濃度計があれば可能であるが、現在検討中。

Q. 酸素の濃度が分かるとしたらどのくらいだと推測できるか。

A. 酸素濃度計の入手後、測定する予定。

Q. サリーが停止した理由について、現状で推測される原因は。

A. 現状把握している情報だけでは想定は難しい。バルブが本当に閉じたか、もしくは信号を発する制御系に問題があり、閉警報が出たという可能性が考えられる。但し、操作を何もしていないのに関わらずバルブが勝手に閉じるというのは考えにくく、制御装置側に異常があり、バルブが閉じた可能性もある。いずれにしても、原因が判明し次第、公表させていただく。

Q. 今まで、サリーの停止で類似現象はあったか。

A. 今まで停止した事象は2つである。1つは9月8日の朝にボタン操作を誤り、非常停止を押してしまった件、もう1つは9月15日流量が確認できない状態であったため、手動停止した件である。後者については、制御盤の基盤を取り替えた所、復旧した。それ以外に、試運転中にも問題が発生した可能性はあるが、現在手許に資料はない。

Q. 過去の経緯から今回の停止の原因は推測できないのか。

A. 過去の2回は手動停止だが、今回は自動停止であり、別の原因と考えている。制御盤の故障の可能性もあり、その場合は9月15日と同じ原因である。

Q. 5、6号機の汚染水を撒く理由は。

A. 将来タンクを置く場所の確保のため木を伐採しているが、乾燥すると火災が起こるため放水している。

Q. 汚染水ではなく、通常の水をまけば良いのではないか。

A. 再利用として処理水を使用している。汚染水を撒く基準はないが、濃度が $0.05\text{Bp}/\text{cm}^3$ 以下であるので使用している。

Q. 保安院の許可は取っているのか。

A. 許可が必要かどうかも含めて、確認させていただく。

Q. 先日、地震観測記録と基準地震動に対する応答値との比較を公表されたが、現状、福島第一原子力発電所は震度やガル数でどの程度まで耐えられるのか。

A. 確認させていただく。

Q. 地震や耐震の調査について、専門家に判断を仰いでいるのか。

A. 社内において、地震や耐震について担務してきた人間を交えて判断している。

以上